



錦城高校新聞

題字 井口 文章
再刊 第316号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：56回生スキー修学旅行を振り返る
陸上部、小平駅伝で好成績
二面：修学旅行・蔵王での体験を大特集
初の試みとなった体験学習の様子とは？

伝統とゆかりの地、蔵王へ

56回生スキー修学旅行

1月27日(月)から31日(金)まで、56回生のスキー修学旅行が行われた。昨年は蔵王山の噴火レベルが上がった影響で安比へのスキー修学旅行となったため、2年ぶりの蔵王だった。残念ながら終始天候には恵まれなかったが、インストラクターとともに思い出をつくることができた。(編集部共同取材)

1日目

朝、一行は上野駅から東北新幹線で仙台駅へと向かった。仙台駅でバスに乗り換え、蔵王へ出発。
到着後、開校式が行われ、福田秀峰副校長先生は「ここに素晴らしいインストラクターの方が揃っています。スキーをしたことのない人も安心してください」と話した。



山々に囲まれた白銀の世界でスキー。最高！！

2日目

蔵王で初めての朝を迎えた2日目。9時から15時半まで行われたスキー実習で初心者滑り方を学んだ。午前の講習の後、宿に戻り実習班ごとに昼食。インストラクターの方と一緒にカレーライスを食べた。午後には樹氷ライトアップ見学の予定だったが、強風による山頂へのロープウェイが動



助けも借りてどんどん上達

3日目

予定されていた全山ツアーは、雨のため翌日に延期に。午前中は、各々が部屋で時間を過ごした。宿舎のひとつオーグヒルでは、クラスごとに合唱の曲をインストラクターの方々に披露した。

4日目

スキー実習最終日となる4日目は、前日に雨が降ったため中止となった全山ツアーを行った。この4日間で学んだことを活かし、みな思い思いにスキーを楽しんだ。

午後には全員が横倉ゲレンデ前に集まり、閉校式が行われた。インストラクターチームの岸宏さんは「4日間だけでは、まだ滑り足りないと感じた人が多いと思います。ぜひまた山形に来てください！お待ちしております」と話した。閉校式の最後には、お世話になったインストラクターの方々にTシャツをプレゼントした。インストラクターとの別れを惜しむ生徒の姿が多くみられた。

陸上部 こだいら市民駅伝で快走



温かな声援の中コースを走る陸上部員

2月2日(日)、温かな日差しの中、第40回こだいら市民駅伝大会が開催された。コースは小平市中央公民館からスタートし、12.4キロメートルを3.1キロメートルごとに分かれ4区間タスキを繋ぐ。今回は昨年より27チーム多い155チームが参加し、温かな声援が会場を包みこんだ。錦城は一般男子の部に陸上部から2チーム、教員から

2チーム、教員と陸上部員の混合1チームが出場し、一般女子の部に陸上部から4チームが参加した。結果は一般女子の部で2位入賞。さらに一般男子の部でも教員生徒混合チームが2位入賞し、第3区の選手が区間賞も受賞するなど大きな活躍を見せた。一般女子の部で2位に輝いた溝田明日海さん(1C)、高

橋祐菜さん(1E)、深田すみれさん(1E)、松井美咲さん(1G)に話を聞いた。「1位を目指していたので少し悔しいですが、入賞できたのは素直に嬉しいです」と話す高橋さん。4人は「このメンバーで走れて良かった。来年は1位かつ歴史的新記録を目指します」と語った。

男子一般の部で優勝し、第3区で区間賞も獲得した江口明宙くん(3C)は「やってきた事が間違いないと最後の大会で分かってくれて嬉しかった」と話す。3年生の江口くんは「走ることは受験勉強中のリフレッシュにもなっていたので、毎日30分以上は走ることが欠かしてませんでした」と振り返った。

大会当日はあまり良いコンディションではなかったという江口くん。しかし、チームで賞を取りたいという気持ちで走り切ったそうだ。最後に、来年度は市民駅伝で走る後輩に向けて「賞を取れるよう頑張ってください」とエールを送った。

錦城のヒーリングスポット

1月31日(金)の昼休みにジャンベの体験会が行われた。ジャンベとはアフリカの太鼓のこと。開催場所の食堂前スペースからは、思い思いに太鼓を叩く賑やかな音が聞こえた。スクールカウンセラーの中島静代先生によると、この体験会を企画した理由は、現在月1回ほどのペースで開催されているドラムサークルをもっと知ってもらいたいという。ドラムサークルでは参加者が輪になり、ジャンベなどの打楽器で即興的に合奏する。中島先生は「ドラムサークルはストレス解消にもつながります。この体験会をきっかけにドラムサークルにも参加してほしいです」と話した。(鴻)



参加生徒からは「自由で楽しい」「民族的」という声

いつもと違う食堂で

2年生が修学旅行へ行って付いてきて嬉しいですよ」と笑っている1月27日(月)から1月31日(金)までの間に、食堂で「お留守番キャンベーン」が実施された。期間中は、一部メニューが提供された。うどんを食べた安田有沙さん(1D)と話聞いた。普段、食堂はあまり利用しないという2人は「先輩から、この期間は食堂のメニューが安くなるかと教えてもらったので来てみました」と話す。2人は「ラッキーだね」と口を揃えた。



この日はカレーライスがサービスメニュー！

今回のキャンベーンについて食堂の職員藤田麻美子さんは「多くの錦城生に食堂を利用してもらおうと企画しました」と語る。特に料金が高くなったメニューが人気で、安いメニューが売れたという。5日間続いた「お留守番キャンベーン」は盛り上がり、藤田さんは「みんな喜んでくれてよかった」と嬉しそうに話した。(卯)

ペットボトル自販機、環境への配慮は？

1月20日(月)の放課後、書道室で代議員会が開かれた。議題は、①制服改革について、②ペットボトル自動販売機設置についてだ。制服に関して生徒会は10月30日(水)、代議員を通して各クラスで挙がった意見を集約。生徒会長の橋嶋太朗くん(2A)は「中央委員会の定例会で『女子ベストの通年着用義務の撤廃』、『学校指定コート以外のコート着用許可』の2案を3学期中の成立を目指して優先的に取り組むことが決まりました」と説明した。自動販売機設置については現在職員会議での承認を待っている状態だという。そこで代議員会では、ペットボトル自動販売機設置をした場合、環境対策として錦城ではどんな取り組みをしているのか、話し合いが行われた。生徒からは「エコキャップ回収の箱を設置する」、「燃える、燃えないなどのゴミ箱表示にイラストをつけて分かりやすくし、分別のミスが起こらないようにする」などといった意見が挙がった。終始活発な議論が行われ、最終的には、生徒一人ひとりが環境へ意識を持っていくよう呼びかけることに決まった。(橙)



代議員長先導のもと議論が進められる

むらさき草

つい最近、友達と待ち合わせをしていたが集合場所を間違えた。すまないことをしたと思っていた。「今でしょ」で有名な林修先生は、少し前の番組で敗者に共通する三点を挙げた。それは「情報不足」「慢心」「思い込み」▼この3つの情報不足とは、事前の準備で情報収集が十分でないこと。そして林先生は、情報不足が慢心と思ひ込みを生み出すと語っていた▼実際に第二次世界大戦では、米軍に対して旧日本軍は情報収集が十分でないまま開戦し、敗北への転換点とされるミッドウェー海戦でも慢心があったといわれている。(G.W.プランゲ著『ミッドウェーの奇跡』他)▼「段取り八分仕上げ二分」という言葉があるそうだ。他にも「備えあれば憂いなし」「転ばぬ先の杖」等々、昔から事前の準備が大切だと言われてきた▼岩手県洋野町は、東日本大震災の被害が大きかった岩手、宮城、福島3県の沿岸自治体で唯一、死者・行方不明者がゼロだった。「とにかく逃げる。過去の津波被害の教訓から、その意識の高い町民が多かったという。犠牲者ゼロの陰には、町を挙げたこの数年の取り組みがあった。(河北新報2011年11月24日より)。また、同じく釜石市でも『津波でんでんこ』の教えに基づき、津波からの避難訓練を重ねてきた市内の小中学校では、全生徒が即座に避難。生存率99.8%という素晴らしい成果を挙げた『釜石の奇跡』と呼ばれた(産経ニュース2014年3月10日より)という。準備をできる限り徹底することが、最終的に多くの命を救うこともある▼友達との待ち合わせも、予定の確認を徹底していれば、たくさん遊べることができただろう。準備不足と思ひ込みが失敗の原因だ▼どんなに小さなことでも、きちんと準備をしておけば成功へとたどり着くことができる。今度はきちんとした確認のうえ集合場所へ向かいたい。(藍)

新聞委員会編集部に入ませんか？
新校舎7階生徒会室まで！

大会報告
2月2日(日)
新聞委員会・映画研究部
教育委員会賞
将棋部 金ユリ(2D)
高文連会長賞
生徒会動静
1. 25 ~ 2. 14
2月4日(火) 体育学芸委員会
2月6日(木) 球技大会実行委員会
2月12日(水) HR委員会